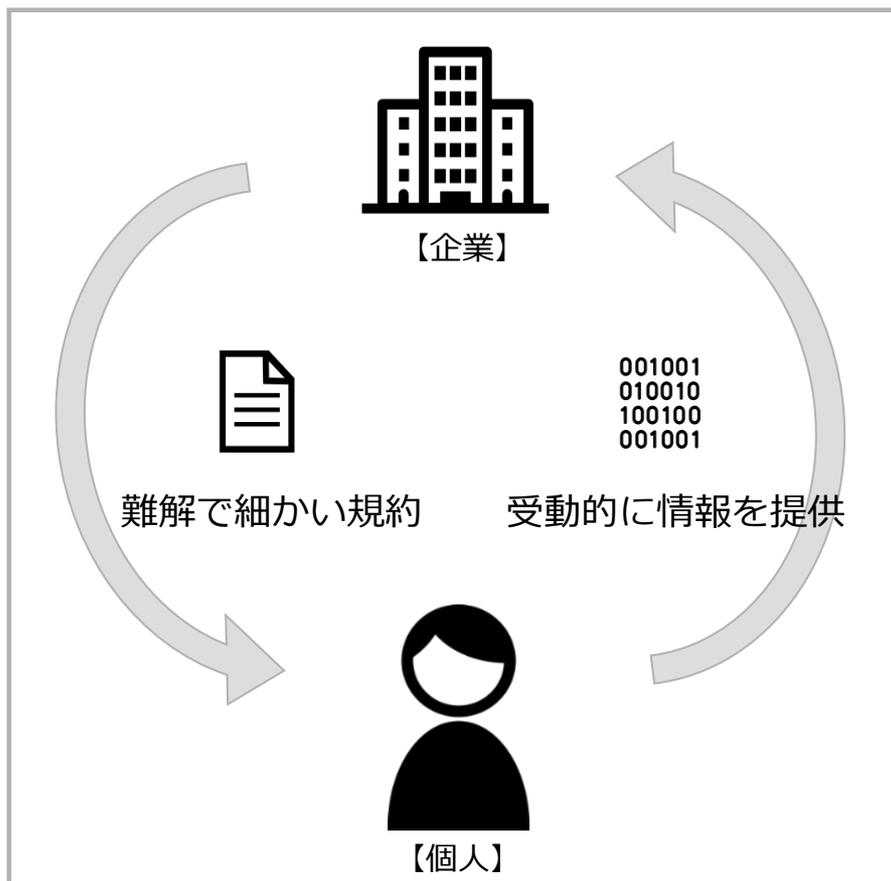


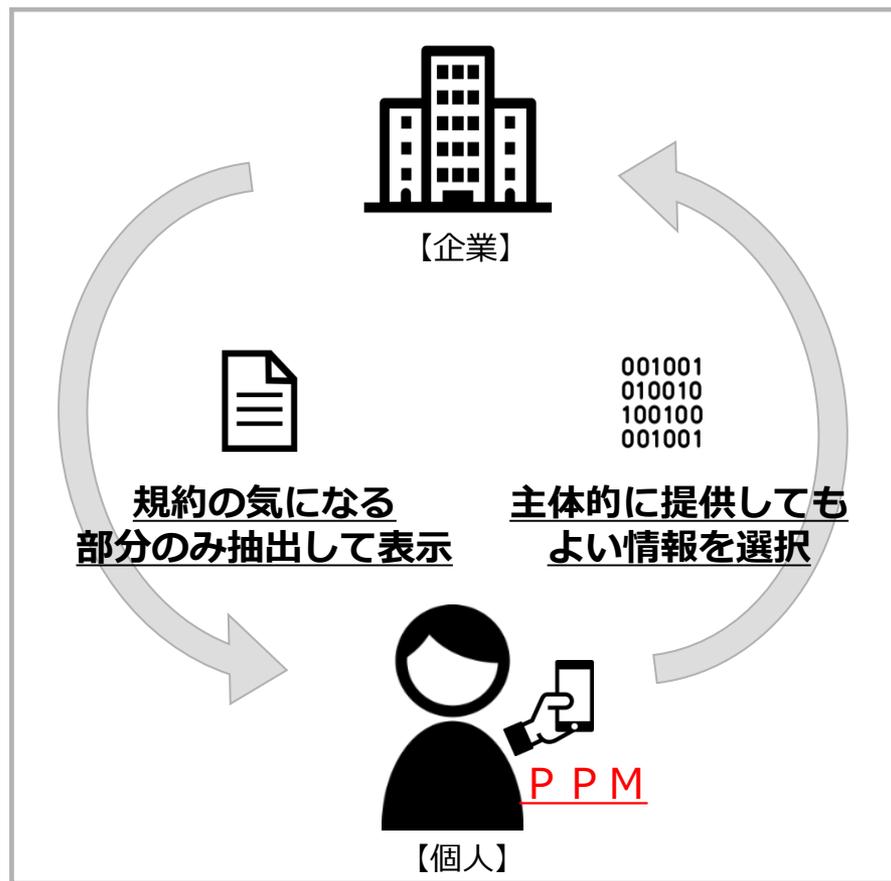
PPM（プライバシーポリシーマネージャー）とは何か

- PPMとは、個人が企業等に情報を提供する際のプライバシー保護を補助するツール。
- PPMには、①企業が提示する規約を分かりやすく表示する仕組みと、②本人の意思で提供する情報の秘匿レベルを調整できる仕組みが搭載されている。
- 企業の提案に対して受動的に情報を提供するのではなく、個人が主体的に情報を提供するかどうかを判断しやすくなる。

<現在>



<PPMが導入されると>



実験で設計した P P M の仕様①：規約を分かりやすく表示

- 今回の実験で設計した P P M は、データ提供依頼者が提示する「規約」を分かりやすく表示する機能を付与した。
- 具体的には、特に利用者が気にしやすい、①取得するデータの種類、②取得したデータの利用目的、③取得したデータの第三者提供の有無、④依頼者の概要、⑤問合せ先の 5 点を表示させた。

<今回の実験で使用した規約の内容>

項目	内容
取得するデータの種類	個人情報（氏名、性別、生年月日、電話番号、郵便番号、メールアドレス、トライアルポイントカード会員番号）及びレシート情報（購買日、小売事業者名、小売事業者店舗名、商品情報） ※ただし、P P M で秘匿化が可能
データの利用目的	<ul style="list-style-type: none">・本人から第三者へ個人情報と電子レシートを提供することに関する意識調査・経済産業省事業における調査研究・謝礼（トライアルポイントカードのポイント）の付与
第三者提供の有無	有り（株式会社トライアルカンパニー）
依頼者の概要	<ul style="list-style-type: none">・株式会社インテージ・大日本印刷株式会社
問合せ先	依頼者の個人情報相談窓口の連絡先

実験で設計した P P M の仕様②：本人の意思で情報を隠す

- 今回の実験で設計した P P M は、情報の秘匿レベルを「低」「中」「高」「自分で設定」の4つを選べるようにした。
- 秘匿レベルを「高」にすると、性別や都道府県レベルの住所などの情報しか提供しないこととなる。一方、秘匿レベルを「低」にすると、住所、電話番号、メールアドレスなどのプライバシー情報も提供することとなる。

項目	秘匿の可否	秘 匿 レ ベ ル		
		低	中	高
姓	可能	経済	経済	***
名	可能	太郎	***	***
性別	不可	男性	男性	男性
生年月日	可能	19800301	30代	***
郵便番号	可能	1000013	10000**	10*****
住所	可能	番地・部屋番号まで	市町村区まで	都道府県まで
電話番号	可能	03-3501-1511	03*****	*****
メールアドレス	可能	keizai.taro@meti.go.jp	*****@meti.go.jp	*****
小売名	可能	経済産業商店(株)	スーパー	*****
店舗名	可能	霞ヶ関店	東京都千代田区	*****
購買日付	可能	年月日+時分秒	年月日+時	年月日
購買商品	不可(※)	チョコレート	チョコレート	チョコレート
合計金額	不可(※)	108円	108円	108円
会員番号	必ず削除	*****	*****	*****
クレジット番号	必ず削除	*****	*****	*****

※購買商品情報は秘匿対象ではないが、P P Mを通じて提供したくない電子レシートを除くことは可能